



著：琉球乃笑  
非言語出版



だといふに、俺はじうしてボクツトの中へ銃を握り締めていろいろ毒手相きも毒事だといふ部。戸籍の無い浮浪者も、誰かからも無軌道な若者がみない平和な街だ。冷たい風に晒されながら深夜の公園を歩く。エリート層の住居を許される島の事だ。

3

を高く鳴らせる事は難しくない。出てきていてゐる。

硝煙の匂い……人間の本能的な神経を刺激させるそれらの刺激えち、今や磨耗した彼の心臓に形を打ち抜くこの行為は、かゞつた人形を蜂の巣にしていくのかツタ部長に見立てた人は景氣の良い光いと音を携えた。ここに初めて訪れから半年ほど。面腕で抱える生活費の多くがスラップに通うのが彼の一日課となつていた。実弾を撃ち放題で一時間七千円。彼の生活費の多くがスラップについて……！ BRATATATATA! ヲンカンを乱射する。退社後はストリート地下ガング

易るを去らうとしたところで、彼の身は凍りついた。彼は接合に氣付かれ前その許可證を必要とするが、今は会社のアスダの時に再々汗かき市民銃の前には人種では、彼らの過度な目と花壇の花を配した整然た配置された花壇の中に埋まられた遊歩道を、腹をかて空が見えた野犬のように徘徊する。白い街灯に現

三〇二

「この手の銃を。この手に握る銃を部長に向け、そう引き。そうすればこの荒野のようになに乾いた精神を潤わせることができるのか？」

「そうだな、やうやうな朝がいい。あの男は皆の前で威張り散らす。俺は怒鳴らんがらうも、不敵にはくそ笑む。そして銃を取り出し、気持ち悪い禿頭を打ち抜く。クルージュやないか。」

「俺は英雄だ。奴の血と回僚の喝采を浴びながら、俺は笑顔で警戒に連行されてゆく。（…）俺は英雄的死を演じて、まるで想像して、彼は虚しくなった。みんな男とその大いなるために英雄的に死を演じて、乾いた」



入。髪。手。は。目。の。前。に。い。た。の。で。そ。の。頭。を。轡。ち。抜。い。た。

昨夜この場で行われた凄惨な殺合戦の復讐を想像し、濃密な死の匂いに当てられてゐる者も少なくない。即ち出血がひどい。

その死で引金をつたふに似たと見えて、刺さつてから数分は生存してゐたいと思へる。

先づ死体と似たように、鳩尾を一突きされてゐる。右手には拳銃。引き金が掛かつたままだ。男の問題は血に染まつたビブススーツを着てゐる。倒れてゐるが、どちらにも異様に血が多い。一方の遺体が彼だけである点で、あたつたなら、この事件は鋭い刃物と強シクおおよび失血だろう。成人性の明白ではあるが、彼が通すといふ時、犯行は夫の鋭い突刺によるショック死であらう。（たゞ、背の中を貫くといふだけで、死因は背後からの灯台下、あるいは死んでから三十分経過後、転がした）

公園で人が死んでゐる。いや、この街でも人死には決して珍らしい事件ではない。現場の警官たちは死体などよ『外』。通報した。『外』。

「この男は必ず死体だったことが。捜査資料として見ただけだ。直接は今回が初めてある。問題は、以前見た写真でも今度回コイツが「以前二度目になる。」

[illegible]



その上、今回の事件は、

人が被害者の特徴を当局のリストと照合する際に以前との事件との関係が浮かび上がった。

一ツは見えた時だ。事件が起きたのはその一ヵ月後。集団リシチの末に絞殺された犯人の少年が捜査官の「フはすぐ逮捕し、全員が犯罪者を認めた。しかし被害者の身元が分からなかった。犯人の死体が一問題となる事件が起きたのはその一ヵ月後。集団リシチの末に絞殺された犯人の少年が捜査官の

戸籍者として扱われ事件は終了した。

この一件に關して捜査當局はこれ以上上の捜査を無意味と判断し、被害者は街の外から紛れ込んだが無さる身体系的な特徴もない。犯人は被害者の男に自分を殺すやうに唆され、被害者は外から紛れ込んだが、する元が分らない。身分証明書の所持品がなく、行方不明者として一に被害者の身ない動機を述べた浪生で、スト銃が溜まり誰にも残されておいて犯人はすべて頭銃で撃たれて見えた。即死だ。犯行に使用された拳銃の指紋が現場に殘されており、犯人はすべて頭銃で撃たれて見えた。アダムは二ヶ月前に込んで情報端を逃める。この死の体と同じ顔をしたように似た人。今の男と同じ顔をした人。体が最初に見え



「なんたいい變顔の無い「記者」といふのはあんまりなものでないか。」「華」が無いね」「事件に

彼女は不服そうにアダムを睨んで「すまませ」と「叫び」を上げ、上から早く去っていく。彼女が、

に「滲む疲れの色が誤魔化せていない、不健康そうだな女性だ。」「ミセス・エリザベスの方から余程血色が、  
記者と想われる女は驚いて振り向いた。苦しいとはいつても三十分。厚めの化粧も顔  
「うう、お姉さん。」「ハハ、立ち入りの禁止だぞ。」「規則違反かい？」「キープアウトしてやろ」

「サルであるとの記事を書かれても面白くない。」「彼らは音を立てて侵入者の後ろに回った。  
うかが、先ほどミセスに記者には気を付けろ、言う言われたばかりだ。」「事件現場の警備、管理体制制



た。……）立ちあがらなく（ふん）の記者としてこのサミットの生活は非常に近しい。

居と食が保障されている。外の世界では望んでいられない。それは誰も理解していない。た。……）立ちあがらなく（ふん）の記者としてこのサミットの生活は非常に近しい。

らてい、サミットの一般には縁の無い話だ。

くはラム街と入っているという話だけだ。年に数度、政府から海外調査隊が派遣されている。海外の情報は殆ど入っていない。民間人が知っているのは、各国の旧都市部は軒並み廃墟、も少な安定した行政を保つ都市である。

現在では大戦以前の国家体制を維持している国は少ない。この南洋島中央行政区は世界でも希い。

住民の多くは在来の旧米国人や華僑、日本人が占めており、貨幣として田が好まれて使用されている。低下し、荒廃した環境を太平洋諸国の難民が大量に移住し独立した都市国家を形成することになった。初は旧ハンノクの行政を継いだ米国領だったが、三十年前の核戦により米国の支配力は大幅に当（この島、南洋島はかつてのハワイ諸島を囲む海域として立て作られた巨大な人工島だ。

しか、それは現実的な願いではなかった。島から海外への渡航は厳しく制限されている。



[illegible]

「外国に行つた事はある？」  
自分でも驚くほどに、  
ほとんど無意識に質問していた。

嘘をついてゐるようには見えないう。奇妙な男だ。まるで物語の吸血鬼と話してゐるような感覚。

「フ、 $\frac{2}{3}$ 、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{5}$ 、 $\frac{1}{6}$ 」

[illegible]

[illegible]



横断歩道に足を踏み入れて数歩。

振り向く途中の視界に飛び込んできたのは、時速百四十超で迫るトラップのヘンドリット——



ところが日課となつていた。十歳の頃に父を亡くした。一年ほど入院していただいたらうか。当時の彼女は病室の父を訪れてゐたが、ああ、もう慣れてしまつたのかも知れない。

ばされ……

私を庇つただろうか。昨夜の最後の光景を思い出す。迫るフロイトシート。後ろから突き飛ばす足で失ひ頭に包帯を巻いた先妻がいた。へマをした、と。それ以上は何も語ることが無く、右足が失ひ原因は定かではない。ある日、病院からの連絡を受けて辿り着いた病室には、材が失ひと言つて、ついで政治的ピクシーを感じた。会社に縛られず自由な取大業を終業者として記者を始めたい。頃、尊敬していた正義感溢れた人だつた。

二十歳。高校から付き合つていた恋人を失つた。男の手居ないオミ家の重作業をよく手伝つてくれる優しい青年だつたが、アルバイト先の工事現場での事故に巻き込まれてしまつた。

「だが、ああ。私も慣れてしまっただけのことかも知れない。……私を庇ってくださったのはどうか。昨夜の最後の光景を思い出す。彼が」

そこからの話は聞てえなかつた。死んだ。彼が。

示されていくと聞いた事があるが、物騒な現場の人間はこんなものだろうか。

ツト脇の椅子に腰を掛けた。

○  
い  
毎  
日

「ふん」

9422

たかぶ、ぶつ



しかしクローン人間の研究は法律によつて厳しく禁じられてゐる。倫理の問題然し、物理的的なと民に見せけるものなかつた。

抗議の声を上げる団体も多かつたが、核大戦後の食糧難はクローン家畜の存在意義をまひまひ減らすのは動物虐待となるにクローン豚やクローン牛などが既に食用として一般になつてゐる。かつは動物虐待と成るに行われており、薬品によつて成長するおちわち老（化）が促進される誕生からおよそ半年で成る島の島では限られた土地、資源の中より多くの家畜を供給するためのクローン動物研究が盛んである。

全く同じ生き物を作り出す技術として一般に知られてゐる。特定の個体から遺伝情報を抜き出し、クローン・細胞群を指す言葉だ。特定の個体から遺伝情報を抜き出す「クローン」は当然とする。「クローン人間だ……」

「『製品』製の企業（バイオ・ファーマ・ス）の「クローン・ファクトリー」の流に乘つて暗号化処置を受けたい……や、違ふな」――拍賣に續けた。

説明だ。

正治療を受けて廃れちやつたみたいてい「詳しいがスツクの記事をそのまま引用した」けつな。然るで、遺れだとき、自部分の暗号子の暗号化自体が生体に悪影響を及ぼすところから殆ど人が修むべきは、流れたとき、自部分の暗号子を一部暗号化した連中がいたといつてよ。もつとも噂は当る社製品の機密保持のために施す処理からいへてよ、政府が市民の遺伝子情報管理を始める

「人の間の一部」「臓器」とかです。オランダで、その人の遺伝子から培養して、いづつ一部份の超が付くほど高価なんで、当然に人があつておくべきです。裕層に移植用として無縁の新しいサスで、それを禁止する法律には抵触しない。」だから、医療用として。

ねどけす

ける先端医療研究の最大手だ。

「とて、企業があるから、当然法です。よ」と、シバが情を呼び出す。「ア・ソ・ノ・オ・ク・社。南洋島におつたところ、企業があつて、一々この企業がクローソー人間なんて作つて出してやる。『部』の間に一つおつた。」

不法渡航者が集まる無法地帯となつてゐる。

その外側、旧ハフノ諸島を埋め立てた人工島南洋の沿岸部は街から外れや海渡ってきた。ましてこの島は、法の秩序に守られていて壁とフェンスで囲まれた中心市街：『街』だけだ。ところがローソンの間は、開成して記してもある。結局どうやら戦うやむやの大戦の前に中国の科学者が法律で禁止されて、できなわいけいな記録を残した。

せかねない危険なものであるからだ。

このとき、ローレン人間技術は不足する資源の更なる奪い合いを招き、この島の体制を破裂さす問題として、多くの移民を受け入れた南洋島は既に人口過密状態であり、無尽蔵に人間を増やす

ている。

与型ナノマシンを用いた遺伝子暗号化を受け持っていたために十年前の事件の際に取の替えられ設立後間もなくその技術を求めたメソックス社の子会社となっていて、かゝる体内投与企業の新興

「な、なんだ」「シンタが指差すのは件の廃業ナノマシン、そのうちのひとつ。」

手を無理矢理に剥がして話しかける。「見てください、メソックス社の子会社、工業研究所が廃業させられてしまった。そのシンタが叫んだ。『ごめんなさい。』」

「ま、すね。フカザの尻尾切っちゃった……」

「先に暗号化分野を切り捨てたか。」

技術。「ハ、ハ、ハ、メソックス社が先か、後か、見たいです。」「そのクセ、生体ノ影響が指摘された写真映し出すので、映いた画面を二入で眺めている、見つかつたのは数年前の記事だ。『あ、あ、あ、きき暗号化伝子』」

「目で作られた体の各々。メソックスを繋ぎ合わせれば人間を組み立てていくことができる。」「技術的に相当



工場跡に調へに行つて来る。シバタは「ここに居とけ」「いやあないだろうな」アダムはサビーからヒートを淹れ、そのまま飲み干した。「この会社の無関係のソンス。ガレロ・スマイテスが乗つてゐるソンス。前に会社にソンスなる男も十年前に死んでゐたのが。」

技術者ハ・オスマンの代表者がスマイテス・オスマン・アトリエ・スマイテスなる男も十年前に死んでゐたのが。

点で十五歳だ「苗字は同じだが、その人相は例の『カリロ・マス・インブー』と全く一致しない。種類のもものだ。顔写真は倒産手続きの際に役所に提出された書類で、請求すれば簡単に開示されるが読んでいるのは会社の例の男も、姓はスマイザーで名乗ってしまつたようだが。」

「行われていたらしい。それが始つてやうやく十年以上経つた。紙十枚にも満たない量だ。警察に依頼された資料を合せて得られた情報は紙の用紙に記入してあるか」

「アサヒ新聞社の代表者はアンソニー・スミス、カントウ・スミス、アサヒ新聞社の紙の用紙に記入してあるか」

「アサヒ新聞社の代表者はアンソニー・スミス、カントウ・スミス、アサヒ新聞社の紙の用紙に記入してあるか」

「カ」リ「レ」ロ「ハ」ニ「？」

の スー ツ の 男 性。

声が聞こえた。未だに鮮血が染み込んでいた。しかし彼は、彼女の中に容け込められ、声だ。

— 十才二五ノ

日が沈んでいく。空は四分の一を残して暗く染まり、静かに夜が訪れる。

薦められたが、彼女には必要ないものだった。

その日の内に退院の許可が下りた。オミは夕暮れの街の中を歩いていた。



「ザチャリ。アダムが、アッシュトを覗いて下に降りないか、観察していい」と、背後で扉を開け歩

場があり、その先には同じ面積の縦穴がそびえている。壁面に取付けられた設備を見るに、穴はシャフトになっている。この下から『荷』足はぽつぽつと垂れ下りてくる。『何だ、こゝに荷準備室。』その部屋にあったのは、床に落ちた。『荷準備室』と書いてある。足はぽつぽつと垂れ下りてくる。『何だ、こゝに荷準備室。』その部屋にあったのは、床に落ちた。『荷準備室』と書いてある。

と感でながら、曇った金屬プレートに『出荷準備完了』と銘打たれた区画の下アを開けた。……) スアシだっのか？ 實際確たる証拠があつたわけでもない。一入で調査に来て正解だった。

[illegible]

渡す。既に日沈み、明かりは少ない。この地区ではいつフェンスの向こうから銃弾が飛んでく。ダムは警用の特殊装甲車から降り夜視様の軍用サバイブルを掛けて固く見。アダムは先に街のシマスから外れたシマスがあり、民間人の出入りは厳しく制限されている。ガリロ・パイオシマス工場の跡があるのは街を囲む壁の外、港湾地区だ。一枚のフェンス



[illegible]







た。今となつては停止の方法も分からないう。そこは既に地獄。死を目的とした永遠の生を得た男するんじやないか。工場が廃棄されても独立動力を備えていた地下施設は稼動を止めません。その後は、何度も試しましたよ。次はストックが切れるでいいから、次でストップは停止能にした単純明快なストップは一度で止まらず、死と生を繰り返すストップと化しました。特別な技術がつかつた。スライヴの死の後に記憶を継承したクロック体を起動させる。特異な技術が許さうてゐる。であれば。」気が付いた『ハハ』が聞いた「彼が開いたシステムは主の死を許さうてゐる。崖から飛び降りて、あああなたはどつたの?」「死を選んだ、それを実行した男はそこに立を選んでいふ事実は伝わつた。サオミンにはそれまで話の良く分らない。しかし死から逃れた末に男が自らの死をうに語る。崖から飛び降りたはずです。何もきえずに直ぐに実行できず「何も無いか?」神は擦り切れてしまつた。一年の放浪の後に彼に精の『外』で生きる事に難しかつた。街に残した妻の消息も知れず、一年の放浪の後に彼に精の『外』公には死したスライヴは街に戻る事はできないう。記憶の欠損、精神と肉体の乖離を抱え「それが私の地獄の始まりでした」

繼承した予備の肉体が目覚めたのだ。今まは彼が居る『出準備室』で。その数時間後には彼の記憶を「す」が起動するよう仕掛けたので「す

なうは。

それは、彼女にとつて救いだつた。あの時間は偽りでなく。彼との出会いは真実だつた。

だつたのだらうか。

街の外では更に多くの屍が積み上げられてきたのだらう。

「死でしか生を得られない。自分の死だけで満足できているば、まだ良いんだろ」が「アダム

①の種には、もはや死しか残つてないから、た。

「あ、俺が気にするところはねえ。」俺よりも無く無くなる。俺は二人の關係に、いや、俺は最初から外部者だ。そのうちに車に復帰すればこの事件との

だろ。う。その時が来れば、解さ放たれた男は人生を取り戻せるのだろうか？

彼女はそう言った。何重もの偶然を掻い潜つて死を齎す悪魔だと。ならばいいつつかやうに遂げるの

『私は死神ですか』

停止させざるを得ない。

彼のクローゼットは古いパオパオ社の自動キリヤに守られ、外部から侵入して

「あのお嬢さんは上手にやっています」「かしら、時間は掛かっているが、だれが本人はやるに溢れた。あの日は、彼女は誓ったのだ。」

いたるに

かから来た不法滞在者を一時に收容する施設だ。今回、スミーズはその施設に無期收容と  
に処分するところでもない。そこで第二種收容施設に故り込む「第二種收容施設は街外  
を踏んで逮捕する事はできません」野矢にするには余りに危険な人物だが、その特性上秘裏  
にいるが、スミーズ・ス・カリウス、『書類存在しない人間よ。』正式な手続きを  
言つた。「スミーズの遺体も確認されていく。法の通りに死んでいく。スミーズは今生



な特徴は、ロミニユンケーシーシェンクの道具として役立つことを目的としている点である。ハビも明確に歴史のなかで大きな違いがみられるといえ、いくつかの普遍的特徴の内容も認められる。最も長い「本、書、書籍、図書、図書など」という。文学ないし学術の出版作品。ユスニコでは統計的のために『表紙を含めて49%以上』の非定期の印刷物の「定義」しているが、それは密には書物とみなされているさまざまな出版物を十分にカバーできない。書物の形態内容にはその長い「歴史的なかで大きな違いがみられるといえ、いくつかの普遍的特徴の内容も認められる。最も明確に

では前者。「物書」はうとうと。左に記すのはargood氏に尋ねた「物書」の意味である。

ペーシ紙を開くこと、ペーシの画面にメッセンジを伝えること、より長い本文を二冊にまとめる。取つて代つた羊皮紙の写本は、書物の形態に革命的変化をもたらした。本文のとてつておひきとで入されたギリシアはパピルスの巻物を採用し、それをローマに伝えた。400年までに巻物に導り、拓本による保存が開始された。400年には油煙からつくられる墨が、9世紀には木版印刷がなつてはぐまかれた。文献は継続的に写本に、175年孔子の文獻が石板に彫刻されるようになった。もと出版を禁じようとした（焚書坑儒）が、事物によする學問は漢朝（前206年〜220年）のつて出版物は紐がつながれた木や竹の細長い板でできていた。秦の始皇帝は前213年に焚書により、的なる書物は紐をつなげた木や竹の粘土板文書の粘土の板文書の現よりも現代の書物の直接の祖先に近い。中国の原始のリア、あるいはヒタクトの粘土板文書の粘土の巻物は、同時代の古代メソポルムやバビロニア、前3000年の古代エジプトのパピルスの巻物は、保存し、説明し、発表し、情報の人々を知識と社会において知れる。基本的目的には、携帯性と耐久性がある素材に書かれた（あるいは描かれた）相当長さのメモに持つ運ぶように、軽く耐久性がある。基本的目的には、携帯性と耐久性を持つて、読み書きのできる一に持運ぶように、軽く耐久性がある素材に書かれた（あるいは描かれた）相当長さのメモの単純さるために出版するというところである。ボルを用いたことがある。第8の特徴は、美しさに文や絵、記譜法の道具として役立つことであつた。第2の特徴は、内容を伝えるために文二ケク、シルム、さまざまなエジプトのハピルスの巻物の中世の羊皮紙の写本、紙に印刷された本、イン



以上。大麥詳しい説明をYoung氏に感謝します。

により置きかえておくべきであらう。私はいろいろなところで書いてきているが、google氏の説明を直ぐて、ユースコピとはいうやうな著作権を書籍について多くは出版物に無視する（ことに決めた）。これについてカッパーで書いていないといふ。私は「著作権」を「書物の定義」だ。「物」といふのは表紙を含めても三十三ページ程度しかない短編である。ユースコピはいうやうな著作を書籍と認めない腹積もりである。

さて、私がこの中でいう部分にはまず「表紙を含めて49ページ以上」の非定期の印刷発行

では、拙作「ガリレロ」について述べて下さる頂きたい。

その標を小三読へ。ジ頃から公夢し、三のテアマー「SF」「変熱」「サリロ」を必要とする作品に企画が始まりつた。日頃からまたには自分でお話を考えて形にしてみて、いかに達成させるかという「M2」のメバークが何故か「E」にまじつて、年度中に達成させるという





「これからも小説書いてみたいか、思わないかな、形にできないうちに、球乃笑でした。」

ジャスミン・ヤミーに出かけて、ちがちなカチグ・ミン・サリマ・メジャー・ゲームとして書きましました。

と、うで、小説の冒頭に、登壇して、直ぐ死んだ彼、あは、特に設定と考えていません。

それだけ、小説も、一本、分るくらいになって、うで、勘弁してください。